

管診協、管口カメラを発売

マンホール・管路の調査・点検に

管路診断コンサルタント協会（管診協）は15日、マンホールや管路の調査・点検に活用できる管口カメラ「管診鏡」シリーズを発売した。水コンサルタンツなどに活用してもらうため、定款の変更や新たな歩掛の策定を行い、普及を進めていく。販売も管診協が窓口となっており、会員企業には購入特典を設ける予定。

新製品のラインアップは、マンホール点検用360度カメラ「管診鏡MC」、（写真）と、管路点検用高解像度管口カメラ「管診鏡PC」の2機種。

管口カメラは、カメラとライトを伸縮するポールの先端に取り付けた調査機器で、作業者はマンホールに入孔することなく、マンホールや管路内の様子を撮影できる。

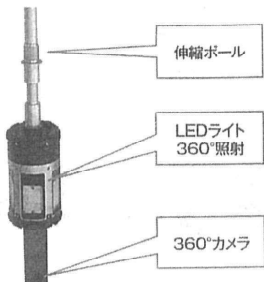
管診鏡MCは、ポールの先端に360度撮影可能なカメラと、全周を照らせるLEDライトを搭載。マンホールの中をくまなく、かつ鮮明に撮影でき、同協会が行ったテストでは、腐食やスレ、クラックの状況も把握しやすいという。

管診鏡PCは、先端に高解像度ズームカメラと2基のLEDライトを搭載し、管路内の腐食やズレ、たるみなどの異状を確認できる。

ポールは最長6メートルまで伸ばすことができ、2機種ともタブレットやパソコンへリアルタイムに画像を転送できる。重量は、MCが3キログラム、PCが2・4キログラム。カメラに市販品を導入するなどし、高画質を確保しながら、従来の管口カメラよりもリーズナブルな価格になっている。

担当者は「ストックマネジメントに基づく点検調査や、腐食環境下での定期的な調査でぜひ活用していただきたい」としている。

管診協は今年度、管診鏡の発売に際して定款の事業内容を変更し、新たに「管路構造物の点検機器、関連するシステムの開発、販売および保守」を盛り込んだ。また技術委員会の中に管診鏡歩掛策定分科会を設置。協会が発行する「下水道管路施設改築・修繕に関する設計委託業務標準歩掛（案）」の別冊として、高解像度カメラを用いたマンホール・管口点検編を編纂した。



伸縮ポール

LEDライト
360°照射

360°カメラ